



新世タイムズ

第52号web版

令和8年3月18日

発行：福岡県立ありあけ新世高等学校PTA

編集：広報委員会

題字：前畑 杏奈（2年次1組）

令和7年度 第2回

卒業証書授与式

令和8年3月1日(日)

式辞

校長 井上 雅水



木々の芽吹きが始まり、春の訪れを感じる今日の佳き日に、県教育委員会をはじめ、ご来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、福岡県立ありあけ新世高等学校第21回卒業証書授与式を挙げてまいります。心より感謝申し上げます。

卒業証書を授与されました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を迎えました。心からお祝い申し上げます。

三年生の皆さん。

皆さんはこの三年間、体育大会や文化祭、総合学科発表会などの行事での活躍を通して、仲間と協力し、自ら考えて行動する力を培ってきました。

また、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、さらには授業選択の場面においても、自分の進路や生き方と向き合いながら、主体的に学ぶ姿勢を身につけてきました。

さらに、今年一月には「三年

生から校長への提言」として、後輩たちのために、これからの本校のあり方について、さまざまな意見や提案を届けてくれました。自分たちが卒業する立場でありながら、学校の未来を真剣に考えてくれたことを、私はとても誇りに思っていますし、心から感謝しています。

私は、この言葉をとても大切にしています。

「主体性は、小さな選択の積み重ねによって育つ」

人生は、いきなり大きな決断ばかりがあるわけではありません。むしろ今日、何をするか、誰とどう関わるか、逃げるか、向き合うか、やるか、やらないか、そんな小さな選択の連続で、人生はできています。

そして、その一つひとつを「誰かに決めてもらう」のではなく、「自分で選ぶ」ようになったとき、人は本当の意味で、自分の人生を生き始めます。

私は皆さんに、いつもこう伝えてきました。

校是「新世生よ、人生のプロデューサーたれ」と。

プロデューサーとは、台本どおりに動く人ではありません。自分で考え、選び、決めていく人です。

これから先、迷うことも、失敗することもあるでしょう。でも、そのときに大切なのは、「誰かのせいにする」とではなく、「自分はどうか選ぶか」を考えることです。

どうかこれからの人生で、小さな選択を大切にしてください。その積み重ねが、10年後、20年後のあなた自身をつくり出します。

今日で高校生活という「第一章」は終わります。しかし、人生という作品は、ここからが本編です。

主役であり、監督であり、そしてプロデューサーである皆さんが、どんな物語をつくっていくのか——私は心から楽しみにしています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

お子様はこの三年間で、立派にそして逞しく成長されました。職員一同、心よりお慶び申し上げます。

本日まで本校教育活動に寄せられました数々のご支援とご厚情に、厚く御礼申し上げますとともに、卒業生一人ひとりの輝かしい前途を心から祈念いたしまして、式辞といたします。



本日ここに、ありあけ新世高等学校の卒業式が挙行されますことを、PTAを代表いたしますして心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

思い返せば皆さんは中学生時代をコロナ禍で過ごしました。入学式が中止や延期になり、マスクを装着し過ごした中学生時代だったと思います。先の見えない社会情勢、制限の多い学校生活、不安と隣り合わせの日々を過ごしてきました。

そして迎えた高校生活。思い描いていた高校生活とは違う現実にて、戸惑い、悔しさを感じたこともあったと思います。



皆さんが過ごしてきた高校生活は、決して「当たり前」ではありませぬでした。

思うようにいかなかった日、悔しさに言葉が失った日、不安で眠れなかった夜もあったでしょう。

それでも皆さんは逃げずに、立ち止まりながらも、「こたれることなく前に進んできました。その一歩一歩が、今日のこの姿につながっています。」

「こたれない心を作るのは努力です。その努力と経験が、時には周りを助ける糧となり、やがてそれが、自分を守る術となります。でも時には逃げることも大切です。どうか自分を大切にしてください。そして、生きる力を身につけてください。」

そして保護者の皆さま。

この日を迎えるまで、どれほどの祈りと心配と、そして見守る覚悟があったことでしょうか。子どもたちの背中を信じて待つことの難しさと尊さを、私たちはこの三年間で学ばせてもらいました。子育てに正解はありません。日々子どもを思い、考え、関わり続けるその時間の積み重ねこそが、そのご家庭ならではの「答え」になっていくのだと思います。

今日は、その覚悟と努力が子供たちの姿に、答えとなって現れていることかと思えます。

卒業生の皆さん。

これから先、迷うことも、立ち止まることも、きつとあります。そんな時は、ここで過ごした日々を思い出してください。

卒業生の皆さん。

これから先、迷うことも、立ち止まることも、きつとあります。そんな時は、ここで過ごした日々を思い出してください。



皆さんには、支えてくれる人がいて、帰ってこられる場所があり、そして自分の力で立ち上がった経験があります。

どうか自分を信じて、一歩ずつ前へ進んでください。

私たちはいつでも、皆さんの味方です。

結びに、本日まで熱意をもってご指導くださいました校長先生をはじめ諸先生方に、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの未来が、希望と温もりで満ちたものでありますよう、心から願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



校庭の桜のつぼみがふくらみ、春の訪れを感じる今日、私たち卒業生のためにこのような温かく厳粛な式を挙行していただき、誠にありがとうございます。校長先生をはじめ諸先生方、保護者の皆様、そして在校生の皆さんに卒業生一同、心より感謝申し上げます。

三年前、大きな期待と少しの不安を胸にこの学び舎の門をくぐった日のことを昨日のこのように思い出します。新しい制服に身を包み、慣れない教室、初めて出会う仲間、校舎の広さに戸惑いながら教室を探して歩いた日々も今では懐かしい思い出です。期待に胸を膨らませる一方で、うまくやっつけていけるのだろうかという不安もありました。しかし、日々の学校生活の中で仲間と笑い合い、支え合ううちにその不安は少しずつ安心へと変わっていききました。授業では時に難しさに直面し、自分の力不足を痛感することもありました。それでも先生方は、私たち一人ひとりに真剣に向き合い、理解できるまで丁寧に教えてくださいました。知識だけでなく努力することの大切さ、最後まで諦めない心、物事に誠実に向き合う姿勢を教えていただいたこと

とはこれからの人生において大きな支えとなります。

学校生活の中でも特に心に残っているのは多くの学校行事です。

二年生の修学旅行では、仲間と過ごす時間の尊さを改めて感じました。雪に覆われたゲレンデでのスキー実習では、思うように滑ることも互いに励み合う、少しづつ上達していき喜びを分かち合いました。また、デイズニードという夢の国で過ごした時間や東京での班別行動では仲間と笑い合い、同じ景色を見て同じ時間を共有できることがどれほどかけがえのないものかを実感しました。何気ない会話や笑顔の一つ一つが、今では大切な思い出として心に刻まれています。

三年次生最後の体育大会では、私たちが中心となって企画・運営を行いました。ブロック長や団長をはじめとするリーダーを務めた仲間たちは、責任の重さに悩みながらも最後までやり遂げ、私たちが導いてくれました。意見がぶつかり合うこともありますが、何度か話し合い、支え合いながら一つの行事を作り上げた経験は私たちに協力



することの難しさと素晴らしさを教えてくれました。競技の勝敗を越えて仲間と心をつなげたあの瞬間の感動は、これから先も決して忘れることはありません。

文化祭では、初めて一般公開が行われ、これまで以上に多くの人に楽しんでもらうために準備を重ねました。試行錯誤を繰り返しながら仲間と力を合わせて作り上げた教室や企画は、多くの来場者の笑顔につながり、大きな達成感を得ることができました。一つの目標に向かって努力する喜びと仲間とともに何かを成し遂げる充実感を学ぶことができた貴重な経験でした。

こうした行事だけでなく何気ない日常のすべてが、私たちが成長させてくれました。休み時間に交わった何気ない会話、放課後の教室で過ごした時間、友人と励まし合いながら勉強した日々。当たり前だと思っていた毎日が実はかけがえのない時間だったのだと今になって強く感じていきます。

高校生活は、決して楽しいことばかりではありませんでした。思い通りにいかず悔しさを感じた日、自分の未熟さに向き合わなければならなかった日もありました。それでもその経験があったからこそ、私たちがここまで成長することができたのだと思います。困難に直面したとき、そばには必ず支えてくれる仲間や先生方の存在がありました。

先生方。私たちが迷い、立ち止まったとき、いつも温かく見守り、励まし、導いてくださいました。時には厳しい言葉をかけてくださったこともありましたが、それはすべて私たちの

成長を願ったことでした。先生方の言葉や姿勢はこれからの人生において私たちの指針となります。三年間、私たちが支え続けてくださったことに心より感謝申し上げます。先生方が信じてくださった私たちの未来をこれから自分たち自身が信じ、歩んでいきます。

そして、保護者の皆様。これまでどんな時も変わらぬ愛情をもって私たちを支え続けてくださり、本当にありがとうございます。うまうまいか落ち込んだときも何も言わずに見守ってください。背中を押してください。何気ない日常の支えがあったからこそ私たちは安心して学び、今日という日を迎えることができました。この場をお借りして心からの感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございます。今日まで大切に育ててくれた皆様の子どもの成長を、この日を迎えられることを私たちは心から誇りに思います。

共に三年間を過ごしてきた卒業生の皆さん。

皆さんと出会えたことは、私にとって何より宝物です。毎日当たり前のように「おはよう」と声を掛け合い、授業中に目が合ったら笑い、授業中にも話で盛り上がったこと、放課後に帰る理由を探しながらただ一緒に過ごした時間。そんな何気ない毎日がもう戻ってこないのだと思うと、今この瞬間がどれほどかけがえのないものだったのかを痛感しています。楽しい事ばかりではありませんでした。悩んで迷って、自分の弱さに向き合っていました。涙を流した日もありますが、隣には必ず皆さんが

いてくれました。何も言わずそばに居てくれたこと、かけてくれた一言、何気ない笑顔、その全てに私は何度も救われてきました。

今日をもって、私たちはそれだけの道へ進みます。明日からは同じ教室に集まることも同じ時間を共有することもなくなりそうです。当たり前だった日常が、今日で終わるので、今日でこの景色を見ることも同じ場所で同じ時間を過ごすことも最後になります。何気なく過ごしてきたこの日々が、どれほど特別だったのか今になってようやく気づきました。

この学校で皆さんと出会えたことを私は一生忘れません。それでもこの三年間で築いた絆は決して消えることはありません。ここで過ごした時間、共に笑い合った日々、支え合った記憶はこれから先どんな時も私たちの心の中で生き続けます。この三年間があったから今の私たちがいます。皆さんと過ごした三年間は、私たちの人生の中でかけがえのない時間でした。この出会いに心からありがとうございます。



私たちは今日、この学び舎を巣立ちます。これから先、困難に直面することもありますが、この三年間で得た経験や出会い、そしてここで学んだすべてがきっと私たちの力となり、前へ進む勇氣を与えてくれるはずですよ。

最後になりましたが、本日も臨席いただきましたすべての皆様を改めて深く感謝申し上げます。この学び舎で過ごした日々を誇りにそれぞれ未来に向かって力強く歩んでいくことをここに誓います。この場所で出会えた全ての人の時間を胸に私たちはそれぞれの未来へ歩んでいきます。三年間本当にありがとうございます。

令和八年三月一日
卒業生代表 登川陽菜

